

### 1 自己評価及び第三者評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2890900406		
法人名	合同会社Maa3's		
事業所名	オリヴィエ東山		
所在地	西宮市東山台1丁目5番地		
自己評価作成日	令和4年2月21日	評価結果市町村受理日	令和4年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/28/">http://www.kaigokensaku.jp/28/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和4年3月16日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

自然豊かな西宮市の北部に立地しており、近くにコンビニやスーパー等の商業施設があり、JR福知山線名塩駅から徒歩で約10分と立地の良い場所です。しかし、施設からは六甲山が見渡すことができます。とても落ち着いた雰囲気の中で生活することができます。また、食事やおやつを施設内で職員が手作りして提供しています。利用者様にも出来ることは手伝っていたり、アットホームな雰囲気の施設を目指しています。

眺望がよく自然に恵まれ、生活にも便利な環境にある。献立作り・手作り調理を行い、利用者の嗜好・季節感・節句・行事を取り入れ、盛り付けや彩りにも工夫し、食事・おやつが楽しめるよう細やかに配慮している。レクリエーションとして、イベント・壁飾り・食事・表札リース・個別レクを毎月計画し、季節感を大切に活動的に過ごせるよう支援している。家庭菜園を活用し、野菜の植栽や収穫も行っている。理学療法士・鍼灸師・柔道整復師等の専門資格を有する職員体制があり、かかりつけ医・看護師等と連携しながら、日常の受診支援とともに、緊急時対応・介助方法の助言・日常や退院後の機能訓練等で医療連携体制を構築している。共用型通所介護サービスを併設し、レクリエーション・アクティビティの充実にもつなげている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を各ユニットのホールに掲げて、意識し、実践につなげる事が出来ている。	事業所独自の理念「人に寄り添い 気づき共に歩む」を策定し、各ユニットのホールに掲示し、職員が日々目にして共有できるよう取り組んでいる。利用者個々のケアや生活支援についての話し合う中で理念に立ち戻り、理念の実践につなげるよう努めている。	理念に地域密着型サービスの意義も盛り込むことが望まれます。また、理念の実践に向けた具体的な取り組みとして、職員と共に実践状況を振り返る機会を定期的に設けてはどうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防により、外出や面会等がここ数年難しくなっているので地域との繋がりが持てていないが、以前は地域のお祭りに参加したり認知症の見守り訓練に参加していた。	通常は、地域への外出、地域の祭りへの出店・参加、小学生や保育園児との交流、演奏等のボランティアやトライやるウィークの受け入れ、認知症高齢者の見守り訓練参加等、地域交流・地域貢献に取り組んでいる。コロナ禍のため上記は休止しているが、近隣の障がい者就労支援センターとの交流(週1回のシーツ交換・菜園での収穫体験)、陶芸講師・リハビリ体操講師の受け入れ、AED設置等、可能な方法で地域交流・地域貢献の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で毎年開かれている認知症の見守り訓練に参加し、地域の方に認知症について理解して頂く活動をしている。		

# オリヴィエ東山

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハットや事故報告について、その原因や改善策について話し合い、より良いアドバイス等があれば職員と共有し、サービスの向上に努めている。	通常は、利用者・家族代表・地域代表・知見者・市の権利擁護支援者等を構成委員として2ヶ月に1回開催している。コロナ禍のため、令和3年度は、市の権利擁護支援員・知見者・事業所職員を構成委員とし、5・1月は書面会議、7・9・11月は集合会議として開催し、3月も集合開催を計画している。開催時には、利用者・職員状況、活動、行事、事故、ヒヤリハット、地域交流の状況等を報告し、意見交換を行っている。集合開催できない時は、案内文・資料を返信用紙と共に、知見者・権利擁護支援者に郵送している。返信内容は「運営推進会議議事録」に記載し、次回会議時に配布している。運営推進会議議事録を公開ファイルとして玄関に設置し公開している。	家族・地域代表・知見者にも議事録・資料・返信用紙を郵送し、広く意見・情報交換できるようにしてはどうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を提出して、疑問点等を伺っている。	運営推進会議を通して市との連携がある。運営等に関して質問や相談があれば、市の窓口主に電話で問い合わせ、助言を受けて適正な運営に活かしている。市からのメールでコロナ関連の情報提供を受け、事業所での感染予防策に反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止の委員会を設置しており、その内容を職員で共有できるように勉強会の議題として扱っている。	身体拘束をしないケアを実践している。「身体拘束適正化のための指針」を整備し、3ヶ月に1回、「虐待・身体拘束防止委員会」を開催している。委員会には、施設長・管理者・当日出勤職員が参加し、拘束事例なしの確認と、センサーの適正使用・言葉による行動制限の防止等についての検討を行っている。議事録コピーを閲覧用ファイルに挟んでフロアに設置し、周知を図っている。「年間研修スケジュール」に沿って年2回、動画視聴による勉強会を実施し、職員は各自で受講し「研修報告書」を提出している。安全上、玄関・各フロアの扉は施錠しているが、希望があれば外気浴や散歩等で対応し、利用者が閉塞感を感じないように支援している。	「虐待・身体拘束委員会議事録」の周知が明確になる工夫が望まれます。また、研修スケジュール表に実施欄を設ける等、研修の実施状況が明確になる工夫をしてはどうか。

# オリヴィエ東山

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止の勉強会を開催し、職員で話し合う機会を設けている。	「虐待防止」についても、上記と同様の方法で、年度内に研修実施を予定している。「虐待・身体拘束防止委員会」で言葉かけや対応について振り返る機会を設け、意識向上に努めている。施設長・管理者・職員間に馴染みの関係があり、相談しやすく、協力が得やすい職場環境を継続し、職員のストレスや不安が利用者のケアに影響しない職場環境づくりに配慮している。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で成年後見制度について取り上げ、学ぶ機会を設けています。	開設以来、権利擁護に関する制度の利用事例はない。今後、制度利用の必要性や家族等からの相談があれば、管理者が窓口となり、権利擁護支援センター等関係機関と連携して対応支援する体制がある。	職員が権利擁護に関する制度について学び、一定レベルの知識を習得できる機会を設けることが望まれます。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際は、ご家族に重要事項説明書及び契約書の説明を行い、質問等に対応している。	入居希望があれば見学対応を行い、パンフレット・料金表等に沿って、入居までの流れ・サービス内容・料金等を説明している。契約時には、契約書・重要事項説明書・指針・同意書等に沿って、質問等に対応しながら丁寧な説明に努めている。特に、重度化・終末期対応については詳細に説明し、家族の不安軽減に努めている。契約内容に変更が生じた場合は、書面送付により説明している。	

# オリヴィエ東山

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談及び苦情の窓口を事業所に設置するとともに、市町村、公的団体の窓口も案内している。	コロナ禍のため、通常の家族の面会や交流は休止しているが、時期を勘案しての短時間面会・電話連絡・所要での来訪時等に、家族に利用者の近況を伝え、意見・要望の把握に努めている。毎月「オリヴィエだより」を郵送し、Instagramやラインを活用して、行事や利用者の様子を伝え、家族の意見・要望が出やすいように努めている。家族からの要望や連絡事項等があれば、システム内の「申し送り」で共有し支援に反映させている。利用者の意見・要望は、日々の会話の中から把握に努め、システム内の「介護記録」「申し送り」で共有し支援や介護計画に反映できるように取り組んでいる。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を開催し、職員の要望や意見を聞いている。	日々の検討内容については、システム内の「申し送り」で共有し、経過も共有しながら、利用者のケアや業務に反映している。必要時には随時、当日出勤の職員で「職員ミーティング」を実施し、利用者の状態やケア・業務について情報共有・検討し、「職員ミーティング議事録」に記録し共有している。特に、レクリエーション(イベント・壁飾り・食事・表札リース・個別レク)等は、職員の意見・提案をもとに企画している。施設長・管理者が2～3ヶ月に1回程度面談を行い、職員の意見・提案等を個別に聴く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の有無や実績、日々の勤務状況に応じて職能給をつけ、向上心が持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修には積極的に参加してもらい、費用も全額事業所が負担している。		

# オリヴィエ東山

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議で他施設の管理者様と意見交換や、相互訪問等を行い、サービスの向上を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談を行い、利用者様の以前の生活環境、不安等を聞いて、職員と情報共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所面談にて家族の思いを聞き出し、入所後も家族と定期的な連絡、交流をして関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	往診、訪問リハビリ、訪問歯科のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理、洗濯、掃除等、出来ることは役割を持って頂き、暮らしを共にする関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	密に連絡を取れるようにし、要望を聞くだけでなく、こちらからもご家族に出来る事を提案して伝えるようにしている。		

# オリヴィエ東山

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	携帯電話やタブレットを使ったテレビ電話を使用できるように支援している。	利用者個々の馴染みの人や場所について、入居前のサービス事業所からの情報や家族からの聴き取り等で把握し、入居後は利用者との日々の会話の中で情報把握に努めている。近隣からの入居が多いため、通常は、家族・友人等の来訪が多く、日常的な外出や外出行事で馴染みの場所を訪れる機会もあり、馴染みの関係継続を支援している。コロナ禍のため、通常的面会や外出を制限しているが、時期を勘案した短時間面会、初詣・花見などのドライブ外出、ラインの活用等、可能な方法で馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーション、食事。行事の際には、みんなが関わり合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入所、入院された方は必要に応じて面談に行き、経過のフォローを行う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	必要に応じて職員カンファレンスを行い、職員で話し合っている。	入居前のサービス事業所からの情報、入居前面談での聞き取り、入居時の「利用申し込み書」等から、利用者個々の思いや暮らし方の意向を把握し、介護計画や支援に反映できるよう取り組んでいる。日々のコミュニケーションで把握した思いや意向は、システム内の「申し送り」「経過記録」で共有し、ケアや支援に取り入れられるよう努めている。把握が困難な場合は、表情や反応、または以前の情報から汲み取ったり、家族の意見や情報を参考にし把握に努めている。	

# オリヴィエ東山

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前めんだんでご家族から生活歴を聞き出して、入所後も施設で抵抗なく生活出来るように配慮している。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	タブレットを使った毎日の経過記録の記載や、申し送りによって職員うあ計画作成担当者が現状把握できるようにしている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成やモニタリングの際は、日々の経過記録を参考に、職員カンファレンスを行い作成している。	入居前のサービス事業所からの情報、入居前面談での聴き取り、「利用申し込み書」等をもとに、初回の介護計画書を作成している。介護計画書をシステム内で共有し、介護支援専門員が口頭でも説明し周知を図っている。サービスの実施については、システム内の「経過記録」と各種チェック表に記録している。3ヶ月毎に「モニタリング評価表(モニタリング実践記録表)」でモニタリングと再アセスメントを行い、大きな変化がなければ6ヶ月毎に介護計画を見直している。計画見直し時は、利用者・家族の意向やかかりつけ医等の意見を集約し、職員カンファレンスで検討し次の介護計画に反映している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所として、アセスメントシート(フェイスシート)を整備し、利用者の人物像を共有できる書式の作成が望まれます。</li> <li>・介護計画に基づいたの実施状況を記録に残す工夫が望まれます。</li> <li>・計画見直し時の職員カンファレンスの議事録を作成し、利用者・家族の意向、主治医など関係者の意見、職員の意見をもとに検討した内容を記録することが望まれます。</li> </ul>
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットを使用することで職員の情報共有がしやすく、ケアの見直し等に役立っている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と密に連絡を取り、新たに生まれたニーズにグループホームとして出来る限りの対応を心がけている。		



# オリヴィエ東山

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して地域住民の方の意見を取り入れながら地域資源の有効活用方法を話し合っている。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診に加えて、緊急時には24時間体制で連携を取り、ご本人様やご家族様が安心して暮らせるように努めている。	入居時に事業所の医療連携体制を説明し、現在は全利用者が協力医療機関の医師(内科・整形外科)をかかりつけ医としているが、入居前のかかりつけ医の継続も可能である。2週に1回、協力医療機関による訪問診療、必要時や希望に応じて訪問歯科・訪問リハビリを受けられる体制がある。他科通院は、基本的に事業所職員が同行し状況説明を行っている。訪問診療受診時は、「往診記録」に医師に伝えたいこと・医師の所見・訪問看護師への連絡事項等を記録し医療連携を図り、システム内にも記録している。通院時は、システム内で受診結果等を共有している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置は無いが、提携の医院の看護師が定期的に健康チェックに来ていただいている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には利用者様の様子を見に病院を訪問したり、病院関係者と密に連絡を取り合っている。また、近隣の病院の地域連携室にパンフレットを配布し、施設の説明を行っている。	日ごろから、パンフレットの配布等で近隣の病院と関係づくりを行っている。入院時には、介護サマリー・バイタル表等で情報提供している。通常は、面会に行き、医療連携室と情報交換を行っているが、現在は、基本的に、病院や家族との情報交換は電話で行い、早期退院に向け支援している。入院中・退院前の情報は、システム内で共有している。退院時には、診療情報提供書・看護サマリー等の提供を受け、変化があれば介護計画の見直しを行い退院後の支援に活かしている。	

オリヴィエ東山

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の契約に際し、事業所の看取り介護の指針についても説明し、同意書をいただいている。	契約時に、「重度化した場合の対応に係る指針」に沿って重度化や終末期に向けた事業所の方針を説明し、指針に対する同意を得ている。主治医が看取り段階と判断した時点で、家族が主治医から説明を受け、支援方針の検討、意向確認を行っている。家族に看取り介護の希望があれば介護計画の見直しを行い、主治医・看護師等関係者と連携し、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。経過についてはシステム内「経過記録」に記録している。「年間研修スケジュール」に沿って、動画視聴による「ターミナルケアに関する研修」を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故があった際のマニュアルを整備し、職員に周知している。AEDの設置、訓練を行っている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画、災害時の計画を作成し、職員が閲覧できるようにしている。年2回の避難訓練を行っている。	令和3年度は4月に昼間想定、10月に夜間想定火災時の避難消火訓練を実施している。今年度は消防の立ち合いはなく、自主訓練で実施している。利用者参加のもと、避難場所まで避難誘導を行い、避難経路・場所、消火器の設置場所等の再確認・周知を図っている。事業所の近隣に居住する職員が多く、「緊急連絡網」による緊急時対応体制があるとともに、災害時に地域の協力を得られる体制がある。水・食料等の備蓄はローリングストックし、食事担当者が管理している。カセットコンロ・懐中電灯等も備蓄し、夜勤者がチェックリストに沿って管理している。自家発電装置の設置を予定している。	訓練実施後は「実施記録」を作成し、訓練内容や訓練の振り返り等を、訓練に参加できなかった職員にも周知することが望まれます。

オリヴィエ東山

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症への理解を深めるように勉強会を開催し、利用者様の人格を尊重してプライバシーを損ねないような接し方を心がけている。	「年間研修スケジュール」に沿って「個人情報とプライバシー」研修を実施している。環境設定や排泄・入浴介助時の配慮、認知症の理解等通して、利用者尊重、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応が行えるよう取り組んでいる。個人書類は鍵のかかる事務所の書庫に保管し、肖像権については契約時に「個人情報の使用に係る同意書」の中で同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様がどのようなことを望んでいるのか親身になり聞き、どのように実現できるのか職員で話し合っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人の今までの生活状況を踏まえたうえで、どのような1日を過ごしたいか聞いたうえで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前に着ていた服などを施設でも着れるように支援している。また月に1度の訪問美容でカットやカラー、パーマ等できるようにしている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所前面談でご本人や家族から好きな食べ物や飲み物を聞いて参考にして提供している。 食事の準備や片付けで、その方のできる範囲のことをしていただいている。	施設長が献立を考え、地元で調達した新鮮な旬の食材や事業所の菜園で収穫した野菜等を活用し、手作りの家庭的な食事を提供している。入居前面談で聞き取った利用者の嗜好や、季節感や節句・行事食を取り入れ、盛り付けや彩りにも工夫し、食事が楽しめる細やかな配慮がされている。個別の誕生日には、手作りケーキでお祝いしている。利用者が、日常的にはテーブル拭きや後片付けに、また、味噌づくり・干し柿づくり・ラッキョウ漬け・おはぎ作り等に参加できるよう支援している。コロナ禍以前は、「板前さんと呼ばう(にぎり寿司)」、「食べて世界を旅する(近隣施設の技能実習生によるインドネシア料理)」、ホテルでの外食等、様々な企画を工夫している。食事とおやつは毎日のインスタグラムや、ホームページでも公開している。	

# オリヴィエ東山

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量と摂取水分量を記録につけ、利用者様の状況の変化について把握できるようにしている。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと週に1回の訪問歯科で定期的にケアできるようにしている。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを把握してトイレで排泄できるように支援している。	排泄の自立度に個人差が大きい状況であるが、「排泄チェック表」で個別の排泄状況・排泄パターンを把握し、基本的には日中はトイレでの排泄ができるよう声かけ誘導・介助を行い、排泄の自立に向け支援している。夜間は安眠に配慮し、個別の支援方法で対応している。介助方法や排泄用品の使用について検討事項があれば、日々の提案・検討をシステム内で共有し、経過もシステム内で申し送りながら、現状に即した支援につなげている。誘導時の声かけ、ドア・カーテンの開閉に配慮する等、プライバシーや羞恥心への配慮を周知している。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物や飲み物の工夫や、かかりつけ医に相談して便秘薬の処方を依頼している。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間や曜日は決めずに、利用者様のこれまでの生活習慣や現状の体調などを考慮して入浴して頂いている。	週2回以上の入浴を基本とし、利用者個々の体調・体力・生活習慣・希望等に応じて柔軟に対応し、「チェック表」で実施状況を把握している。3方介助の浴室も設置し、2人介助・シャワー浴と足浴・清拭等、利用者の体力や状況に応じて安全に清潔保持できるよう取り組んでいる。同性介助の希望には同性で対応し、入浴拒否がある場合は日時・職員の変更や声かけを工夫し対応している。一人ずつ湯を入れ替え、自身のペースでゆっくり入浴できるよう時間をとり、入浴剤・ゆず湯など入浴をより楽しめるよう支援している。	

# オリヴィエ東山

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活習慣を観察して、その方に合った時間に休憩して頂いている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局とタブレットを通じて連携しており、服薬情報がすぐに確認できるようにしている。睡眠導入剤や精神安定剤は経過観察を行い、主治医に経過報告している。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の嗜好に合わせたゲームやレクリエーションを用意し、楽しく気分転換ができるように支援している。		
49 (22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナウイルスの影響で外出は難しいが、以前は月に1度程度の外出支援や近所のコンビニやスーパーへの買い物に行けるように支援していた。	通常は、散歩・買い物等の日常的な外出、地域行事への参加、季節の外出行事、工場見学などの遠足的な外出等、行事計画を立てて外出支援を行っている。コロナ禍のため通常通りの外出は困難であるが、時期や方法を勘案して、初詣・季節を感じるドライブ・NPO法人の畑での収穫活動等、可能な範囲で外出の機会づくりに努めている。また、ベランダや敷地内での外気浴、菜園での園芸活動、ベランダでお茶を楽しむ等、戸外で気分転換や活動ができるよう支援している。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の間で金銭の貸し借りのトラブルや紛失がある為、事務所の金庫内にて保管している。 外出の際はご本人に渡して使えるようにしている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望があれば事務所内の電話を使用して電話して頂いている。また携帯電話をお持ちの方は職員が使えるように支援している。		

# オリヴィエ東山

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには季節の飾りつけを行い季節感を感じて頂いている。	共用空間は、南向きで窓が大きく明るく、木調で温かみがある。エコパラダイス工法(シックハウス症候群対策)を取り入れ、2階は勾配天井で開放感がある。温湿度管理、定期的な換気・消毒・清掃により、快適性・衛生面に配慮している。利用者と共同制作した壁飾り等季節の作品が飾られ、季節感が感じられる。テーブル席・ソファ席・畳のスペース等があり、家庭的で思い思いに過ごせる環境づくりを行っている。キッチンで手作り調理が行われ、利用者も洗濯ものやシーツたたみ・清掃・テーブル拭き・片付け等の家事に参加し、生活感を取り入れている。ベランダ・菜園も共用空間として利用者支援に活用している。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファや畳を設置し、くつろげる空間を作っている。食席も指定せずに、その時の気分で食事ができるようにしている。		
54		(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外の家具類は以前に自宅で使用していた使い慣れたものを持ってきていただき、心地よく過ごせるようにしている。	居室も窓が大きく採光が良く、ベッド・クローゼット・エアコン・カーテン等が設置されている。ソファ・テーブル・筆筒・テレビ・冷蔵庫等使い慣れた家具や電化製品、家族の写真・掛け軸・仏壇・趣味の油絵道具・自身の作品等馴染みのあるものが持ち込まれ、居心地よく落ち着ける居室づくりを行っている。手作りの表札リースや必要に応じてのれんを設置し、場所まちがいの防止や、プライバシーへの配慮を工夫している。家族と協力しながら衣替えや環境整備を行っている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すぐにどこに何があるのか把握しやすいように配置を工夫したり、張り紙をしている。		